

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

新年によせて

印教研理科研究部長 五味 健

年も改まり、多忙な日々をお過ごしのことと思います。

理科研究部の事業も、それぞれに成果を上げました。これも会員の皆様のご協力のおかげと感謝申し上げます。

指導要領の改訂に伴う移行期間ということで、何かと指導の難しさを感じていると思います。また同時に、改訂指導要領の主旨と内容の理解に力を注いでいることでしよう。特に、小学校低学年の理科がなくなり、新しい生活科という教科の誕生で、学校現場も戸惑うことが多いと思います。しかし、このような転換期にこそ、私たちの研修が必要であり、今後の研究の出発点となるはずであり、新鮮な目と心で指導する内容を見つめたいものです。

反面、研究部の研究組織上に大きな問題が生じます。生活科が出来たことによる「低学年部会」の位置づけをどうするかということ。この問題は、会員の皆様の

優れたお知恵を拝借しなければなりません。試行錯誤的になるかもしれませんが、よりよい方向で研究が出来るよう、ご協力をお願いします。

理科作品展では、各部会とも大きな成果を上げました。マンネリ化と言われながらも、毎年会員の先生方の指導により、こうして継続できるのも研究部の組織力と指導力と、それを支える会員の創造力によるところ大であるといえます。

若く意欲あふれる会員が増えていきます。この若い力が研究の推進力になることを望みます。

最後に、大日小学校の理科公開研究会には、多数参加されましたことに厚く感謝いたします。研究発表に向けて日々研修を重ねた大日小学校の先生方に深く敬意を表します。大日小学校で得られたノウハウを各学年で生かすよう努力したいものです。

印 教 連 指 定 公 開 研 究 会 報 告

公開研究会が終わって三ヶ月が過ぎようとしています。現在は、今年度の研修のまとめ、平成三年度における二年生の生活科（志向）の年間指導計画をまとめる作業に追われています。

二年間の理科研究授業、環境などについては、郡市の先生方に御覧頂いた通りですが、本校の子供達が理科の学習をどんな気持ちで進めていたのか、そして学んだことは一体何だったのか。作文を通して知って頂けたらと思います。この欄を借りまして紹介したいと思います。

秋葉 俊介

ぼくは、いやなことを経けんしました。モンシロチョウの観察です。どうしてかは、みんなも同じだと思っています。一ぴき二ひき、三ぴきとアオムシコマユバチにさせいされて、死んでしまったからです。さなぎになる直前まで生きていたのに

とてもかわいそうになりました。おそらくアオムシが食べたキャベツもアオムシコマユバチが自分が大きくなっていくために自分のものにしたのでしょう。

小岩井 麻理子

四年生の理科の勉強で、いちばんのしかつたのは、太陽、月の動きです。とくに月の動きでは、月はずっと丸い形なのに、見えなくなったりすることが楽しかったです。月は、太陽と同じように東から出て西へしずむけど、なぜ同じなのか。今でも不思議です。

私は、新聞から切りとっている月を見て、気がついたことがあります。それは、六月からずっと切りにっているのに、新月が一日しかないのです。新月は、一ヶ月に約一日あるのに、約四ヶ月のうち一日しかないのはおかしいと思っています。

次に楽しかったのは、青虫の観察です。私の青虫の幼虫は、たまごから幼虫、さなぎ、成虫と全部生きのこりました。幼虫の思ひ出は、たまごから生まれるとき、たまごがのっているキャベツの葉をピンセットでつかんだ時、幼虫がたん生したのです。授業で幼虫を観察した時、自分の体を私に見せてくれるようにしていました。

幼虫がさなぎになった時、幼虫の体をさわると、ピクピク動いていました。やがて成虫になっていきました。もどつてきてしまいましたが、私の家の庭は広いので、春

夏秋冬、いろいろな虫がみられます。よくとんでいるのはやまとしじみです。（幼虫→青虫の名前）秋葉君は毎日観察記録をつけ、アオムシの成長を楽しみにしています。

「先生、早く成虫になつてとんでいかなかな。」と元気な声をかけてくれた。自分のかわいがついていたアオムシが死んだ時の落ちこみようは本当に見ていてかわいそうにおもいました。

小岩井さんは、六月から十二月までの間、新聞の切り抜きを続けその中で、学習したことと実際の様子のちがいに疑問を感じている。このように、ひとりひとりに目を向けていると、子供たちなりに生物への親しみを深く感じたり、長い積み重ねを必要とする学習の中から疑問を持ち、何とか解決していきたいという強い意欲を感じざるを得ません。教師の取り組みの強弱によつて子供は大きく変化していきます。

公開研究会が終わった日、ある先生が次のように言っていたことを思い出します。「このまま終わらせるのはもったいない。もっともつと理科をやってみよう。」

なにげない一言であつたが、今も脳裏から離れません。二年という区切りはつきましたが、残された課題もたくさんあります。今後継続していきたいと考えておりますので、先生方の御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。

公開授業を参観して
佐倉市立 寺崎小学校
矢部 秀紀

「自ら考え、はたらきかける楽しい理科学習」というテーマにひかれて、大日小学校に足を運びました。

学校に入った瞬間、資料の豊富さと、環境に圧倒されました。オープンスペースをふるに利用して、理科的な環境がいつでも子どもたちの身近に存在し、活用できるものとしていたことに感心しました。校外には、子どもの興味を引き付けるような、チャレンジ的な環境も整っていました。また、小動物の管理等、今後の参考にさせていただきます。

授業の中では、先生方が、子ども一人ひとりを生かすように単元構成など工夫されている様子が見え、驚きました。

公開までの先生方のご尽力をひしひと感じる場面が多く、本校でも環境の充実等さらに力を入れたいと思いました。

編集 佐倉 俊介 記

今年も「あつ」というまに二月の声を聞きました。早いものですね。暖かかったり、寒かったり、いつもの冬とは幾分違います。風邪などに気をつけ、がんばりましょう。